



災害を乗り越える人々の意志がつくる杜、杜に育まれる文化芸術とまちの歴史。

青葉山公園から敷地を見る。後背地としての豊かな森、広瀬川、そして市民が育てた市街地の杜へと運んでいる風景。そんな歴史や風景と調和する、杜と建物が融合した丘のようで都市のようで公園のような佇まいの拠り所をつくる。

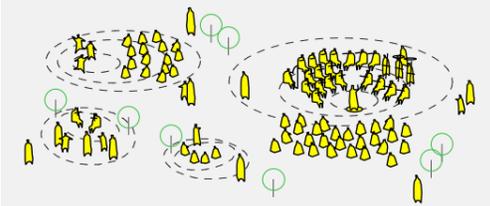
A. 設計の理念と考え

【基本理念】人・文化・まちを育む創造の広場

【目指す施設像】

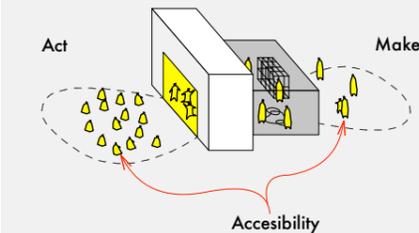
- ①「人と人の交流を通し、新しい文化的価値が生まれる場」
- ②「文化のネットワークを形成し、多くの人が訪れたい場」

私たちは「音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点」の基本計画を尊重し、「人・文化・まちを育む創造の広場」という【基本理念】、および【目指す施設像】①・②を実現するための3つの設計理念を立てました。



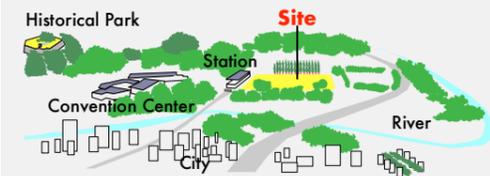
1. 文化を育むアウロのような場

定禅寺ストリートジャズフェスティバルのように、誰もが自由に集い、表現し、発信し、分かち合い、それが同時多発的に生ずる場所



2. 専門性と汎用性の入れ替わりと融合

プロの公演や展示を一方向的に鑑賞するだけでなく、プロと市民が同じ目線で学び、創造し、発信できる場所



3. 歴史・風景との調和

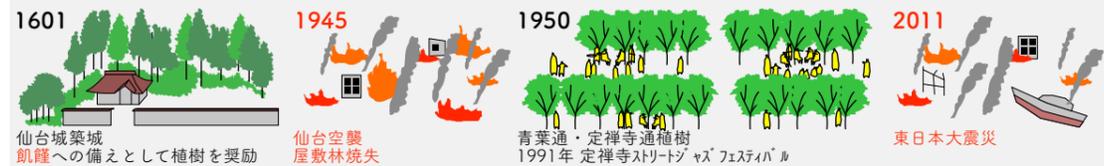
市民と歴史が育んできた杜と街、それを見守ってきた青葉山の自然という風景の中に連続し調和する建築

B. 設計を進める上で特に留意すること

【目指す施設像】②「過去に学び未来を作る、新たな都市文化の創造・発信の場」

基本計画を読み解く中で、【目指す施設像】②「過去に学び未来を作る、新たな都市文化創造・発信の場」が今回の施設の特異かつ難しい点であると同時に、仙台が歩み育んできた歴史や文化に対するこの施設の意義・ポテンシャルを最も体現しうる重要なポイントであると、私たちは考えました。

仙台の災害・杜・文化の歴史



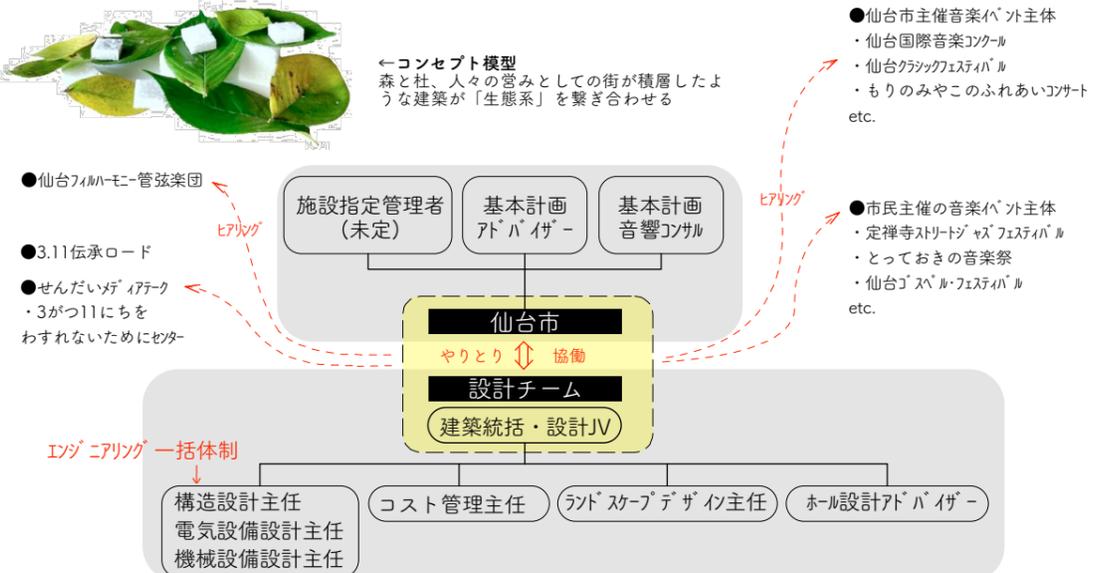
1. 災害と杜<もり>と文化

江戸時代、飢饉への備えとして藩主・伊達政宗が植えさせた屋敷林。仙台空襲後の復興として整備された青葉通や定禅寺通の街路樹。災害を乗り越えここに暮らす人々の手で育まれてきた豊かな杜は、周縁部の自然の森が重なり風土と歴史を育んできました。

戦災から復興し「杜」となった定禅寺通では1991年、市民の手による無料の街かど音楽祭「定禅寺ストリートジャズフェスティバル」が成功を収め、その後の仙台市主催による「仙台国際音楽コンクール」および「仙台クラシックフェスティバル」と相まって「楽都・仙台」の音楽文化へとつながっていきます。この歴史は非常に示唆的です。

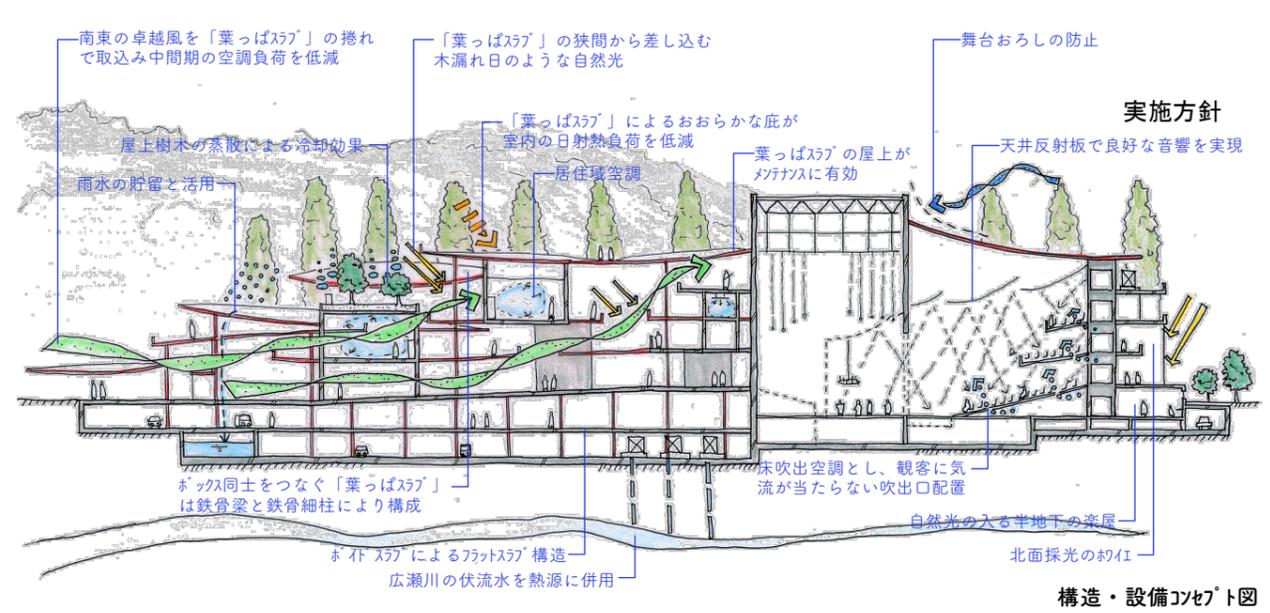
災害を乗り越える人々の意志が杜をつくり、その杜が文化芸術を育み、まちの歴史となっていく。

今回の施設づくりはその延長に位置付けられるものだと考えます。



2. 多様な協働により「文化芸術の総合拠点」と「災害文化の創造拠点」の望ましい複合状態を実現する

上述のように、仙台の街には災害文化と文化芸術がプロと市民をまたぐ状態で共存し、相互に育む土壌や主体が既に偏在しています。設計チームの各専門家に留まらず、そうした既にあるけれど断片である「生態系」を繋ぎ合わせていくことを、設計プロセス全体を通して行なっていきます。



構造・設備コンセプト図

C. コスト縮減に関する提案

■ 構造計画

- ・ホールおよび分散配置されたボックスは経済的なRC造を基本とし、高い耐震性能と遮音性能を同時に実現します。
- ・ボックス同士をつなぐ「葉っぱスラブ」は鉄骨梁と鉄骨細柱により構成し、フレキシブルかつ合理的に形態に追従する構造とします。

<構造計画におけるコスト縮減のポイント>

- ・1階および地下階の構造の工夫：「ボイスラフ」によるフラットスラブ構造とし、一般的な梁型を出さない構造とします。これにより階高が抑えられ、土の掘削量を減らし、コスト縮減を図ります。また、柱は鉄骨細柱を均等グリッドで配置し、荷重を合理的に均等配分することにより構造躯体の最小化・コスト最適化を図るとともに、上階プランへの影響が少ない計画とします。
- ・鉄骨部仕様面の工夫：鉄骨はリサイクル材（電炉材）を基本として環境負荷低減を図るとともに、割高な溶接は極力なくし、ボルト接合を基本としてコスト縮減を図ります。

■ 設備・環境計画

- ・天井高のある交流広場は居住域空調とし、省エネ性と快適性の両立を図ります。
- ・騒音が小さく気流感のない放射空調の採用を検討します。
- ・ホール客席は床吹出空調とし、観客に気流が当たらない吹出口配置とします。
- ・機械室を地下に設け、設備騒音のホールへの伝搬を防止します。

<設備・環境計画におけるコスト縮減のポイント>

- ・南東卓越風の取込み：南東の卓越風を「葉っぱスラブ」の捲れで取込み中間期の空調負荷を低減します。
- ・舞台おろしの防止：ライク周囲の「葉っぱスラブ」が冬期北西の卓越風による舞台おろしを防止します。
- ・自然採光：「葉っぱスラブ」の狭間から差し込む木漏れ日のような自然光が、大ホールの柯いにはやわらかな北側採光が差し込み、良好な光環境を実現すると同時に全般照明による消費電力を抑えます。タスクアンビエント照明とすることで省エネを図ります。
- ・日射熱負荷の制御：「葉っぱスラブ」によるおおらかな庇が室内の日射熱負荷を低減します。
- ・屋上緑化と雨水利用：ボックス上部に樹木を植え屋外広場や周辺環境から連続する快適な立体的緑地をとなります。樹木の蒸散による冷却効果が期待できます。「葉っぱスラブ」で受けられる雨水を濾過して貯水し、トイレ洗浄や屋上緑化散水に活用します。
- ・空調熱源の併用：高効率機器を採用するとともに、ガスおよび広瀬川の伏流水を熱源に併用し電力ピークを抑制します。
- ・センサー制御の活用：昼光センサー・人感センサーと連動する調光型LED照明、CO2センサーで制御される居室換気、COセンサーで制御される駐車場換気により省エネを図ります。

D. 将来の大規模改修を想定した設計上の提案

- ・離散的なボックスの配置のため、将来的な用途変更や改修、増築が容易となります。
- ・機械室を地下及び屋上にまとめることで他ゾーンへの影響を最小限として日常のメンテナンス及び設備の更新・改修が可能です。搬入車両が容易に機械室にアクセスできます。
- ・ホール天井内設備メンテナンス用のキャットウォークと「葉っぱスラブ」による屋上を接続しアクセスを容易にします。

各階別の延床面積表

B1F	9,845 m2	2F	4,881 m2	4F	2,244 m2	
PF	3,330 m2	1F	8,297 m2	3F	3,401 m2	
					延床面積	31,998 m2